2018年度第1回　ラインホールド・ニーバー研究会及び組織神学研究会
菊地順「P. ティリッヒとR. ニーバー ――M.L. キングとの関係をめぐって」

上　発題者：菊地順先生　　下　会場の様子

2018年7月23日（月）、駒込の聖学院新館2階集会室にてラインホールド・ニーバー研究会と組織神学研究会の合同による研究会が開催された。司会は高橋義文先生（聖学院大学総合研究所副所長・同大学院客員教授）。当日の飛び入り参加もあり、参加者は23名と予定席数を超え、盛会となった。

今回は、「P.ティリッヒとR.ニーバー　――M.L.キングとの関係をめぐって」と題し、菊地順先生（聖学院大学政治経済学部教授・同チャプレン）による発題を中心に行われた。ティリッヒの研究者である菊地先生は、その研究の中やご自身が学んだエモリー大学（アトランタ）でキングに触れる機会があり、そこでキングの思想や歩みに関心を寄せたことをきっかけに、ティリッヒ、キング、さらにはニーバーのそれぞれの思想や関係性について辿られた経緯を紹介された。

また3人はそれぞれ時間的なずれがあるものの、公民権運動が大規模に展開された1950年代後半から1960年代の前半のアメリカに生きたことに注目し、彼らは互いにその存在を認識しその主張に触れながらもそれぞれに肯定と批判を行いながら距離を保ったまま歩んだ背景と主張について、丁寧に辿られた成果を報告された。

当日の発表の詳細は、本研究所NLの本号に当日の発表を基にした原稿が掲載されているので省くが、互いが寄せた関心や称賛、批判をキングの視点から見るとき、ニーバーとティリッヒの影響は、他の思想家とともに多くの示唆を与えたものと考えると結んだ。

この発題を受け、キングとティリッヒの実存主義思想との関係や、公民権運動との関わりについて質問や指摘がなされた。これに対し、菊地先生は、キングの信仰を支えたのはキング知的探求であり、彼が知的確信を持つことにより信仰はより強く発揮されたものとなったこと、彼が学生時代に非暴力について学んだことは公民権運動を行う上での素地となっているとの考えを示した。

また、キングとティリッヒにおける「愛」の概念の類似性について、「愛」と「正義」と「力」との関係性を示された。

（報告者・文責：菊池美紀［きくち・みき］学術支援部研究支援交流・出版会事務課）